

適用病害及び使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数
西洋芝 (ペントグラス)	ダラースポット病 炭疽病 葉腐病(ブラウンパッチ)	100倍	0.1L/m ² 散布	発病前～ 発病初期	本剤 6回以内 イプロジオン 8回以内 トリフロキシストロビン 6回以内
		250倍	0.5L/m ² 散布		

有効成分と性状

種類名	イプロジオン・トリフロキシストロビン水和剤
商品名	インターフェースフロアブル
有効成分	イプロジオン(化管法1種)…23.1% トリフロキシストロビン(化管法1種)…1.4%
性状	青緑色水和性粘稠懸濁液体
荷姿	1L×12本

人畜・魚介類に対する安全性(製剤)

人畜毒性 (急性) 普通物*	経口	ラット(♀)	LD ₅₀ 5,000mg/kg
	経皮	ラット(♂♀)	LD ₅₀ >5,000mg/kg
	皮膚刺激性	ウサギ	軽度刺激性あり
	眼刺激性	ウサギ	軽度刺激性あり
	皮膚感作性	モルモット	皮膚感作性なし
	水産動植物に 対する影響	ニジマス	LC ₅₀ 1.47mg/L (96hr)
		オオミジンコ	EC ₅₀ 0.6mg/L (48hr)
		藻類	ErC ₅₀ 5.32mg/L (0-72hr)

*「毒物および劇物取締法」に基づく「毒劇物の指定を受けない物質を示す」

⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用前に容器をよく振ってください。(分離)
- いちご、なしに対して薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合はからないように注意してください。
- 使用量、使用時期、使用方法を守ってください。特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

⚠ 安全使用上の注意事項

- 桑葉にはからないようにしてください。(蚕毒)
- 調飲などのないように注意してください。
- 眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗いし、眼科医の手当を受けてください。(刺激性)
- 皮ふに付着しないよう注意してください。皮ふに付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落としてください。(弱い刺激性)
- 敷設時は、農業用マスク、不透湿性手袋、長ズボン・長袖作業衣などを着用してください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。 ● ラベルの記載内容以外には使用しないでください。 ● 本剤は小児の手の届くところには置かないでください。

殺菌剤 芝用

インターフェース® フロアブル

進化したストレスガード製剤
ダブルの力でしつこい病害をブロック

登録商標 第5549638号



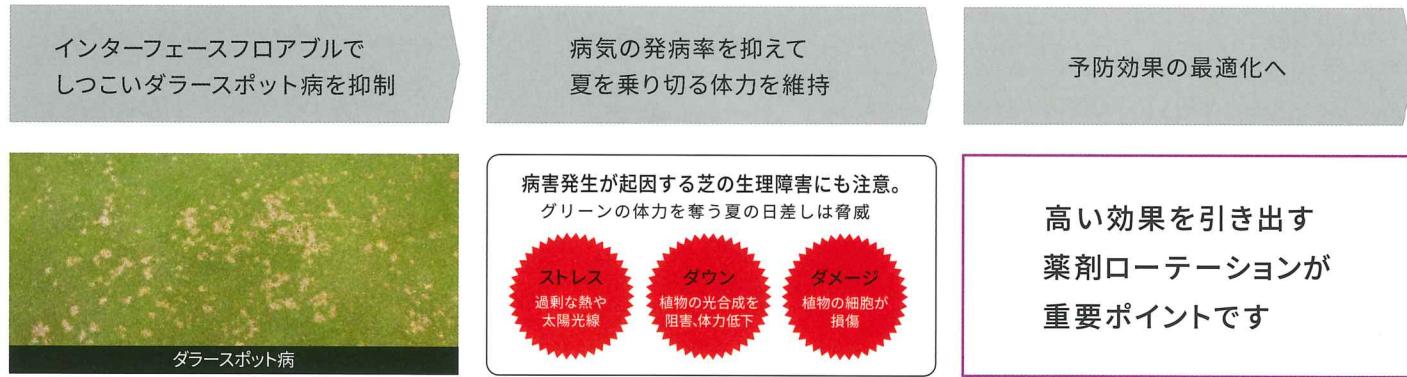
ストレスガード製剤技術を採用 ローテーション散布に最適

インターフェース[®]
プロアブル
殺菌剤 芝用
農林水産省登録 第23359号

特長

- QoI剤とイプロジオン(ロブラー)の混合剤(非DMI(EBI)混合剤)
- しつこいダラースポット病に卓越した効果
- ストレスガード製剤であり、既に販売されている「シグネチャーWDG」、「ミラージュプロアブル」と合わせて、プログラム散布をすることで、夏場のグリーンを強力に守る
- 芝に対する高い安全性
- 使用しやすいプロアブル製剤

グリーンの健康を維持するためには予防散布が重要



ダラースポット病に対する効果



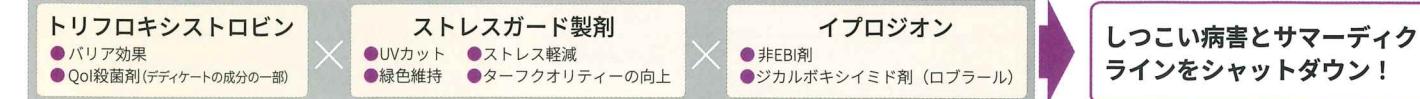
ベントグリーンに対する安全性

薬量	調査日		
	8月3日	8月20日	8月31日
①100倍 (1mL/m ²)	—	—	—
②250倍 (2mL/m ²)	—	—	—

評価方法:—(影響なし)

試験場所	関東地区Bゴルフ場
試験作物	ベントグリーン
処理年月日	2012年7月18日、8月3日
調査年月日	2012年8月3日、20日、31日
散布水量	①0.1L/m ² ②0.5L/m ²

Envuだけの製剤技術



ストレスガード製剤予防散布プログラム例データ

散布時期	4月	5月	6月	7月			
	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
薬剤名	シグネチャー WDG(1) TPN剤 ビシウム剤A (Qi)	ミラージュ (0.5) プロテクメント WDG(1) TPN剤	シグネチャー WDG(1) TPN剤	インター フェース(1) シグネチャー WDG(1) TPN剤	シグネチャー WDG(1) TPN剤	ミラージュ プロアブル (0.5) TPN剤 ビシウム剤B (イソギサゾール)	シグネチャー WDG(1) TPN剤 ビシウム剤 (ロバーフロアブル)

散布時期	8月	9月					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
薬剤名	インター フェース(1) ビシウム剤C (テトラソリル オキシム)	シグネチャー WDG(1) ビシウム剤D (フェニルアミド)	プロテクメント WDG(1) ビシウム剤A (Qi)	シグネチャー WDG(1) ビシウム剤E (カーバメート)	シグネチャー WDG(1) TPN剤	プロテクメント WDG(1) TPN剤	TPN剤

※()内の数字は薬量を表し、単位はmL/m²です。

※ストレスガード製剤及びプロテクメント WDGの散布水量は100mL/m²を想定しています。

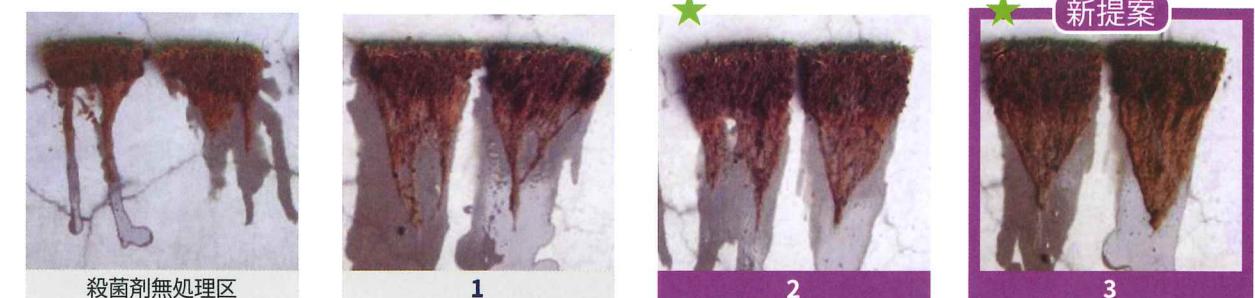
※シグネチャー WDGとプロテクメント WDGの混用はできません。

※複数の薬剤をタンクミックスする場合、投入の順番は
①展着剤→②液剤→③乳剤→④フロアブル剤→⑤水和剤です。

※初めてタンクミックスを行う組み合わせの場合、事前にパケツ等で混用試験を行うことをおすすめします。

※散布例はビシウム病の発生率が高いケースを想定しています。ビシウム剤については、地域・発生圧・気象条件等により適宜散布回数や時期を調節してください。

プログラム散布の効果(根量比較)



全散布回数	内訳
殺菌剤7回	UVカット資材6回
殺菌剤7回	★シグネチャー5回(6月・1回、7月・2回、8月・2回) ★ミラージュ1回(6月)
殺菌剤7回	★シグネチャー5回(6月・1回、7月・2回、8月・2回) ★ミラージュ1回(6月) ★インターフェース1回(7月)

- ストレスガードを含むプログラム散布において(2、3)、夏越し後にベントグリーンの健全な根系が確認されました
- インターフェースを加えることにより(3)、さらに健全な根系の生育が確認されました